

京都教区時報

第201号

田中司教認可
毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
 編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F



8
1994

天皇制とは

洞村跡の現地学習から

前日の雨でぬかるんでいた畠傍山。鞆の汚れやズボンのすそを気にしながらの洞村跡の見学となる。

奈良県橿原市にある畠傍山は、高さ一九九Mの丘を少し大きくしてだけのような小さな山である。

今からおよそ七十年前、そこにあつた洞村という被差別部落が、麓の神武天皇陵を見下ろしているのは、畏れ多いと強制的に移転させられた。

我々は七十年前に思いをはせながら登つていったが、今はうつ蒼とした雜木林が続くだけ。わずかに共同井戸や庭木の棕櫚が残つてゐるだけだった。

天皇制の強権によつて、長年住みなれた村を追わされていつた当時の被差別部落の人々の思いは、一体どんなものであつたのだろう。我々日本人の心に深く住みついている“天皇制とは。”という問いを新たに投げかけてくれた。

「洞村強制移転」について、ご存じの方も多いと思われますが、簡単に概要を紹介しておきます。今からおよそ八十年くらい前、大正天皇が即位して、奈良県の権原にある神武天皇陵を訪れるようになりました。神武天皇陵とは日本最初代天皇の墓で、皇室が最も大切にしている御陵です。現在の平成天皇も即位のために来ているし、皇太子夫妻も結婚の報告のために訪れました。そのときの「雅子さまファーバー」は記憶に新しいところです。

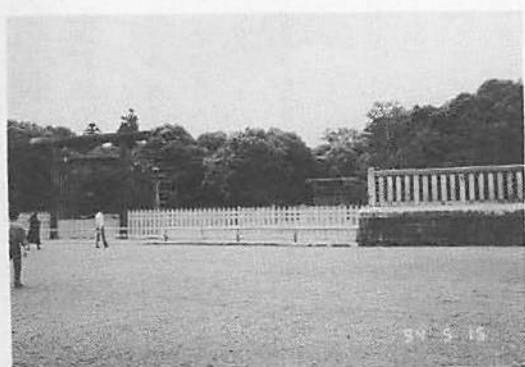
この神武天皇陵を見下ろす位置に、洞という被差別部落があつたのです。畠傍山の中腹に二百八戸の家があり、千人ぐらいの人々が生活を営んでいました。ところが大正天皇の行幸をさかにいろいろと世論が湧き起ってきました。神聖な神武天皇陵を、穢れ多き被差別部落が見下ろしているのは、何んと畏れ多いことか。神山である畠傍山に、部落民の死体をそれも土葬で埋めている。恐懼（おそれおののくこと）に堪えざることである、などと。そして、ついに

雅子さまが神武陵を訪れたときも、この町から数人の人たちが一目見ようと出かけて行っています。被差別部落の人たちも「雅子さまファーバー」に一役買っていたのです。

国民一人ひとりの心に住みついている天皇や皇族に対する意識は、過去にこんな目に合わされた被差別部落の人たちにとっても例外ではないようです。

洞村強制移転が問いかけるもの

佐野 明



洞部落は国家権力の強制によって、長年住みなれた地を追わされていました。これが「洞村強制移転」といわれるべきことです。このできごとは、部落差別と天皇制の問題を論じるときに、よく引き合いに出されるものです。しかし、このできごとをただ天皇制の強権力とか暴虐という面だけで捉えていると、天皇制のかかえているもつと恐ろしい部分が見えてこないと思います。

洞村の子孫の人たちは、現在、大久保町という所に住んでいます。私は家庭訪問やいろいろな機会で、家に上がりさせてもらうことが多いため、部屋に昭和天皇、皇后の写真が飾ってある家がかなりの数ありました。

雅子さまが神武陵を訪れたときも、この町から数人の人たちが一目見ようと出かけて行っています。被差別部落の人たちも「雅子さまファーバー」に一役買っていたのです。

洞部落は、象徴としての存在になりました。戦前のようなくなりましたが、今は、もっと複雑で巧妙にからめとられた天皇制が存在しています。そして、それは日本中の一草一木にいたるまで息づいています。有名な言葉を残しております。われわれ人間が天皇制という聖なるものを紡ぎ出している限り、部落差別をも紡ぎ出しているのだといえるでしょう。

「この樹つて二年前もこんなに緑が美しく、空もこんなにきれいだったのに、私には見えなかつた、あとのころ——」
心身の健康と笑い声のたえない家庭をとり戻した今、彼女は別人のようです。

●あなたの隣人は?

チエルノブイリのお父さんお母さんも、性的被害を受けた女性たちも、不登校不登園の子供に悩むお母さんたちも、自分に注がれて

司祭評議会では現在、教区全体の司祭の配置も含めて、共同宣教司牧について教区の方針を出し

たいと考えています。このためには、司祭だけでなく、信徒と修道者とも一緒に考えていく必要があります。

この課題は以前に「適正配置」という呼び方で、まず司祭評議会で、次に宣教司牧評議会で取り組んできました。しかし、

「適正配置」という呼び方では、小教区の統廃合によって、自分たちの小教区がなくなるのではないかという不安を抱かせるので、現在ある共同体は大切にしながら、「よりよき宣教共同体になるために」どうすればよいかを、話し合ってきました。

「よりよき宣教共同体になるた

めに」という課題については、既に宣教司牧評議会より司教に答申が出されています。

司祭評議会ではこれを受けて、教区全体の司祭の配置を再検討すべきであるという結論に達しました。しかし、現在の教区で働く司祭の数や、高齢化を考えますと、

一小教区一司祭という考えは捨てないといけません。消極的な意味ではなく、積極的な意味で、現在「共同宣教司牧」の必要性がでてきています。

教会法でいう「共同司牧」は、複数の司祭によって進められます。

新しい教会法では五一七条で、「事情により必要と認められる場合、小教区又は種々の小教区の司牧を連帶的に数名の司祭に委託することができる。ただし、その場合、法律をもつて、そのなかの一名が司牧的配慮をすべき責任者（モダラトール）となり、この司

いる神様の愛に気づかれれば、全て氷解し癒される——これはまちがいない事実であり、司教団の教書も明言しておられます。

しかし、それを感じとれる感性が病んでいれば、愛の言葉も無力です。空の青さ、樹々の緑を美し

めに」祭が連携活動を指導し、かつ、それについて司教の前で責任をとらなければならない」と規定しています。

「共同司牧」という用語は教会法典では使われていません。

「共同」とは二人以上の司祭が協力し、同じ資格で働く場合を考えています。

これに対して、「共同宣教司牧」は、司祭だけでなく、信徒・修道者がチームとして進めることが求められています。

もいろいろあつていいと思いません。又、そのあたり方

は、司祭だけでなく、信徒・修道者がチームとして進めることが求められています。又、そのあたり方

もいろいろあつていいと思いません。又、そのあたり方

は、司祭だけでなく、信徒・修道者がチームとして進めることが求められています。又、そのあたり方

いと感じとれる感性をとり戻してもらつたために、私たちが「隣人がなれるかどうか」が鍵のような気がします。

大津・唐崎・安曇川の小教区では、九四年四月より三名の司祭で

活動しています。

又、「共同宣教司牧」への道を模索している所は五つあります。

亀岡・園部の小教区。大和高田・西大和・御所・大和八木・大和郡山の小教区。加悦・峰山・網野・

大宮・岩滝・宮津の小教区。伏見・桃山・田辺・精華・八幡・青谷・

宇治の小教区。衣笠・西陣・西院・桂・九条の小教区です。

尚、三重地区については、ジャクソン師より「二〇〇〇年の三重県」という個人的な提言が出されています。二〇〇〇年というと遠い将来のように思えますが、あと六年で二〇〇〇年になります。みんなで「二〇〇〇年の京都教区」を真剣に考えていく必要性があります。

西院・桂の小教区では九一年より三名の司祭で、九四年五月より二名の司祭で活動しています。

伏見・桃山・八幡の小教区では、

九二年十月より二名の司祭で活動しています。

近隣小教区連絡会だより

私たち、近隣小教区連絡会（京都南部地区・伏見、桃山、宇治、青谷、田辺、精華の七教会）では二ヶ月毎に信徒、修道女、司祭が揃って集まりをもっています。一九八六年四月からです。このメンバーはそれ以前から近隣小教区運動会をしておりまして、今年第十四回を数えました。毎回、主に情報交換ですが、その中から私たちは海外にも目を向けたり、子供の合同キャンプを開いたり、有名な講師を迎える礼研修会も開くことができました。

四回を数えました。毎回、主に情報交換ですが、その中から私たちには海外にも目を向けたり、子供の合同キャンプを開いたり、有名な講師を迎える礼研修会も開くことができました。

まず身近なところで、桃山教会にいらっしゃったフィリピン出身のジユーズ神父様に調査を依頼したところ、フィリピンのボホル島セントメリー・アカデミー校（アウグスティノ女子宣教会運営）が紹介されました。一九九一年の風水害で校舎が大破し修復ができないれば廃校に追い込まれかけいました。人口は約一万五千人ですが、学校は小学校を除けば、この学校が唯一の中高等学校です。父兄たちは大変心配して自分たちから奉仕をかけて出て、応急修理をして留まるように願っていました。

また、この学校（私学）は生徒は約三百五十人で一人の授業料は一ヶ月五百円程度ですが、災害や不安定な経済状態のために支払いができなくなつて、毎年約一〇%の

その一つが海外援助です。戦後の貧困状態のとき海外からの援助で教会を建てていただきました。

今、豊かになつた現在、何かお返しをしなければと援助が提案され、何度も協議の末、恵まれない国の教会施設建設援助をしようと決めました。



回を五月に持ち寄り、以後連絡会に集めることにしました。

今年一月修復援助資金目標百五十万円を三万八千円上回り達成し、就学資金援助だけを継続しております。

初め意見が多少不揃いでしたが、今ではその抵抗を乗り越えて一つを成し遂げた喜びが、次の援助さきのことを自然にみんなで考えました。そしてニカラグアが紹介されたのです。昨年五月、深水正勝神父（東京教区）の中南米ニカラグアのワツララ小教区の訪問がきっかけになって始まった八十の村に小聖堂建設プロジェクト（カトリック新聞四月二十四日号、五月一日号参照）が援助を求めているので二百萬円を目標に三月から送金を始めました。

私たちには第二回福音宣教推進全国会議をとおして発表された司教団文書を読んでいます。「共感から共有に」とか、国際家族年という意味を、縦の関係ではなくて、横の関係で、あたかも調子のよいリズムでキャッチボールをしてい

るような歓喜を与えられているようで、受け取つてくださる人々に感謝しています。

（文責・松尾）

「心の世紀」について

KCC(京都キリスト教協議会)は毎年一度はセミナーを開いています。今年は関西セミナーハウスで「京都における新宗教の諸事情」何故多くの若者が引きつけられるのか」と題して、京都新聞社編集局社会部・吉澤健吉氏(高野教会信徒)による講演があった。氏

は、京都新聞に連載され好評を得ている「心の世紀」の編集責任者である。

この企画は、世纪末にあたって心に悩みや不安をかかえる現代人が何をよりどころにしているのかを、京都ならではの企画で探つて見ようとして、宗教部記者以外の若手の記者を選んで企画編集したものである。既成宗教では十分に応えてくれないとしたら、既成宗教に代るより所はどこにあるのかを見つめ直してみたいというのが動機であつたといわれる。

「現代のシャーマン」から

第一部は「現代のシャーマン」と題して二十五回ほど連載したが、中には高僧と呼ばれる人もあると題して二十九回ほど連載したが、

てそこへはどうも政治家や経済人が出入りするらしい。又、一般庶民と思われる教祖的な人がいて、そこに多くの一般市民が訪れる。

七〇年代丁度、石油ショックと高度経済成長時代の終わり頃から、顕著となつた第三次宗教ブームと呼ばれる新宗教の時代の特徴は、D.O.の宗教、術の宗教と呼ばれるものが盛んとなる。即ち、ある訓練をつめばそこそこ神様との交わりがとれ、指導者になれるこの新宗教にひかれる年齢層に二十代又は二十代前後の若者が多い。彼らはオカルトを好み、見える形の魔術的なものがある所や、神がかり的なものに魅かれる。出入りが自由、宗教のはじごもする。確信があつて入るのはなく、チュウインガムの様に捨てることも出来ない。理屈や説教は大嫌い。プロセス(過程)を大切にするより、短絡的なものを好む。若者の動きを巧みにとらえたものに、幸福の科学がある。彼らは受験システムを採用した。

メディアが宗教をつくる

このシリーズの第二部として、「神々のメディア」と題し編集さ

れた。メディアが宗教を作るとでも言えようか。

広告代理店の電通が、宗教を通して経営を拡大しようとする。そこで目をつけたのが、阿含宗や幸福の科学。例えば、阿含宗の星まつりはその一つ。

幸福の科学は、メガトンキャンペーンと題して実行し百万人もの信者を増やしたと言われる。

確かに、いずれも限界もある事

は事実で伸び悩みはあるにしても、若者の心をとらえている事は事実。

主に以上の様な事をいろんな例をあげながら興味深く話を聞いた。こういった新宗教ブームに対し私達はどう対応し、又、何かを学ぶ事が出来るのであろうか。注意深く分析してみる必要があろう。

世相の反映

尚、江戸末期から明治にかけておきた第一次宗教ブームで生れた天理、金光、里住、大友などの諸宗教、第二次大戦後起きた、P.L.真如苑や、創価学会、靈友会、立正佼正会等の法華グループの台頭がある。これらは、それぞれの世相を反映して出来たものである事がある。これらの諸宗教の設立の背後に

らえていけばよいのであらか、考えてみたい。諸宗教の対話と言う

が、私達はこれらの宗教心情に対し、果して理解し対話する心、あたたかいまなざしと言うものをもつてはいけないのだろうか。それともゆるされているのか。ゆるされ

ているとすれば、それは何なのか、そんな事をふと考えていた。

この連載シリーズは、一読研究に値する。

KCC関係、報告

KCCの動きについては、その都度、くわしく報告すべきかも知れないが、その中で二つ三つ是非報告したい事がある。

一つは、昨年十一月十五日KCC主催で、京都キリストン遺跡めぐりを行い、好評を博した事。それを受けて、今年六月四日、YMC主催で行う事が出来た事を報告したい。これはキリストン研究会の方々の案内で行われ、河原町、

フランスの家、西陣教会の神父様方、信徒の方々の温かい案内ともてなしを受け感謝された。

もう一つ是非報告しておきたい事は、二年後、九六年頃、京都で聖書展を開催する準備が始まっている。どうぞ御期待下さい。

チエルノブイリ報告

宮西いづみ
(津教会)

● チエルノブイリ訪問

●苦悩の地

救援物資をかかえて出かけました。子供たちの肉体の健康状態については、少ないとはいえ出版物やマスコミ報道を通じて日本にも伝わって来ていますが、現地訪問して知った予想外の事実に「家族崩壊の急増」がありました。自然放射能の四十倍、百倍という数値を示す汚染地に住むしかない人々。未来への希望を持てずアルコール依存症に逃げこむ男たち、我が子があす発病してあす死ぬかもしれないという極度の緊張と不安、恐怖にとりつかれ、九五%の母たちに神経症、精神病がみられるという地域で離婚が多発し家庭崩壊がおこっていました。

帰国して数日後、韓国の元「日本慰安婦」の女性から電話。「日本へ行く、会いたい、話したい」とせっぱつまた声。旧日本軍によって人生をメチャメチャにされた恨を、勇気をふるいおして証言しはじめて四年。世界中で心ある人の心を打ちはしたけれど、失った青春は返るはずもなく、切願する「正義の回復」は未だ片リンも実現せず、名乗りをあげた

●与えられた課題

五月はじめ、十日ほどチュルノブイリへ行って来ました。あの、世界中を震撼させた事故から丸八年、九年目に入つたその地に何がおこっているか——ぼう大な量の放射能を浴びせられた人々にどんな生活があるのか、という問いと、救援物資をかかえて出かけました。

が、家庭の温かさが……という甘い思いこみをみごとに打ちくだかれた現実でした。聖地巡礼のつもりで出かけたチエルノブイリ。ロシア正教の地、という意味ではなく二十世紀の十字架を担つてイエス様がそこにおられると思いつづけて来たから。予期したとおりゲツセマネの苦悩、ゴルゴダの苦痛がありました。

ことをきつかけに、よい意味でも悪い意味でも拡った人間関係にほんろうされ、心ない視線、くちざがない言葉という別の十字架までが老いた身にかぶさってくるこのころ。それを心許してやうる「才

じめたのですが、自然の成り行きといいますか、神様の手に導かれていますが、さまざまな生きる悩みを安心して語り、それを心傾けて聞き合う場として成長してきました。

●聞き合う場で

をも数多くもつ「幸せな家庭婦人」（彼女たちがそう言います）です。私の、その幸せな生きる場に、どこまで深くあたたかく彼女たちを迎えることが出来るか、苦ししく重い課題です。

回復と癒し

(彼女たちがそう言います)です。私の、その幸せな生きる場に、どこまで深くあたたかく彼女たちを迎えることが出来るか、苦しむ重い課題です。

●聞き合う場で

週に一度、グループカウンセリ

忘れられないひとつの一例があります。ひどいうつ状態で、これは専門の精神科医の薬物療法が要るのではないかと思った方が、二年間、毎週毎週、訥々^{讷々}とグチグチと家庭の悩みを訴えつけられるのをひたすら聽きました。助言したり叱責もしたい思いを押さえて、丸ごと受容していく試み。

週に一度、グループカウンセリングのような場を開いています。専門家による有料の場ではなく、「誰かと話したい」という全ての人々に無料で開かれたスペースにすぎない場です。積極的傾聴法のトレーニングの場として四年前には

「ヤング・ワーカーズ・フェスティバル94」に200人!

JOC主催の働く青年の祭り「ヤング・ワーカーズ・フェスティバル94」が五月三日～五日にかけて横浜の聖光学園を会場に約二百人が全国各地から参加して盛大に開催された。

「ニュー・フェイス出会い・発見・広げよう私自身と仲間の輪」がテーマ。京都JOC、滋賀JOCからは京都が十二名、滋賀が八名参加した。

久しぶりに会う全国の仲間や初めて出会う人達と声をかけ合ふ中、夜通し車にゆられてきたねむ気もそのときにはふきとんでいた。各地それぞれこのフェスティバルに対する意気込みがすごく伝わってきた。

その夜は不当解雇され、十二年間歌を通して会社と闘い続けている田中哲郎さんのお話コンサートを聞き、交流会へと移つていった。

四日前中は分科会形式で各自が何を求めてこのフェスティバルに参加したのかという内容

夜はみんなのお楽しみ“まつり”があり、各地域で仕事が終わってから集まつて一生懸命準備した歌や寸劇・踊り・ゲームなど、若者のパワーが爆発!その後の交流会でも夜通し酒を飲みながら交流を楽しんだ。

最終日は会場の清掃、記念撮影のあと、閉会式で縮めくられた。閉会式では司会者が「閉会は終わりでなく新しい出発。ここで学んだことをそれぞれの場に持ちかえつて活かしていくことう! 私たちはつながっているのだ」ということを確認した。この集まりを新たな出発にしよう」と励ましていた。

三日間、たくさんの仲間と歌い、踊り、夜まで話し合う中で「若さでチャレンジしていくこと、人と人とのふれあう楽しさ・競争よりも連帯する大切さ」を体験し、みんなの中で宣言した「未来に向かってチャレンジしよう、若いパワーで社会を変えよう、この仲間の輪を広げよう」と胸に帰路についた。

で分かち合いをした。午後からは各グループごとに市内観光を楽しんだ。

夜はみんなのお楽しみ“まつり”があり、各地域で仕事が終わってから集まつて一生懸命準備した歌や寸劇・踊り・ゲームなど、若者のパワーが爆発!その後の交流会でも夜通し酒を飲みながら交流を楽しんだ。

最終日は会場の清掃、記念撮影のあと、閉会式で縮めくられた。閉会式では司会者が「閉会は終わりでなく新しい出発。ここで学んだことをそれぞれの場に持ちかえつて活かしていくことう! 私たちはつながっているのだ」ということを確認した。この集まりを新たな出発にしよう」と励ましていた。

三日間、たくさんの仲間と歌い、踊り、夜まで話し合う中で「若さでチャレンジしていくこと、人と人とのふれあう楽しさ・競争よりも連帯する大切さ」を体験し、みんなの中で宣言した「未来に向かってチャレンジしよう、若いパワーで社会を変えよう、この仲間の輪を広げよう」と胸に帰路についた。

西院カトリック会館行事

問合せ・福音センター(12～16日休み) 075-822-7123

▽柳本神父の雑学講座 「飛鳥めぐり」 3日10時半～

▽おてんとさんの会 毎週火曜日 13時～16時半 16日は休み

▽Sr.アヌンタの書道教室 每週金曜日 14時～16時 12日は休み

▽カトリック聴覚障害者の会手話教室 8月中休み 毎週火曜日 10時半～12時(月3回)・毎週木曜日 19時半～21時

▽青年センター 土日、12～19日休み

▽正義と平和協議会 每土曜日 18時～21時

▽アジア太平洋地域の戦争犠牲者に思いを馳せ心に刻む京都集会 6日 13時半～16時半

▽カナの会結婚相談室開設 7日 13時半～15時

▽特別一般追悼ミサ 河原町教会 19日 西陣教会

▽信睦二金会 子羊会合宿 27～28日(須賀谷) 河原町教会

▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会京都中央理事会 13時～ 河原町教会

▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会河原町協議会 13時～ 河原町教会

▽京都カトリック混声合唱団 14日 14時～16時半

▽レジオ 21日 13時～

▽一万匹の蟻 17日 19時～

▽Sr.ドローレスの聖書講座 26日 10時半～12時

▽宣教司牧評事務局会議 27日 19時～21時

▽キリストン研究会 28日 15時～

三重県カトリック研宗館行事

▽青年レトルト 11日～13日

▽教区高校生会合宿 17日～19日

▽青少年夏期鍛成会 13日～15日

▽メリノールハウス 小学生5年～高校生

▽主催・カトリック滋賀県連合会 14日 13時～15時 成人のディスカッション

▽青少年夏期鍛成会 13日～15日

▽カトリック滋賀県連合会 14日 13時～15時 成人のディスカッション

▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会京都中央理事会 13日～15日

▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会河原町協議会 13時～15日

▽京都JOC(働く人の家)の行事 13時～15日

▽海水浴 6日～7日

▽ティーパーティー 27日 20時～

▽京都JOC(働く人の家)の行事 075-672-6569

京都南部地区の行事

▽特別一般追悼ミサ 河原町教会

▽信睦二金会 子羊会合宿 27～28日(須賀谷) 河原町教会

▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会京都中央理事会 13時～ 河原町教会

▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会河原町協議会 13時～ 河原町教会

▽京都カトリック混声合唱団 14日 14時～16時半

▽レジオ 21日 13時～

▽一万匹の蟻 17日 19時～

▽Sr.ドローレスの聖書講座 26日 10時半～12時

▽宣教司牧評事務局会議 27日 19時～21時

滋賀地区的行事

▽特別一般追悼ミサ 河原町教会

▽信睦二金会 子羊会合宿 27～28日(須賀谷) 河原町教会

▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会京都中央理事会 13時～ 河原町教会

▽聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会河原町協議会 13時～ 河原町教会

▽京都カトリック混声合唱団 14日 14時～16時半

▽レジオ 21日 13時～

▽一万匹の蟻 17日 19時～

▽Sr.ドローレスの聖書講座 26日 10時半～12時

▽宣教司牧評事務局会議 27日 19時～21時

京都教区時報

教区スケジュール

- 8月
- 4日(木) 比叡山世界平和の集い・田中司教参加
 - 4~7日 教区中学生広島巡礼
 - 5~6日 広島平和行事・田中司教参加
 - 6~15日 平和旬間
 - 12~16日 教区事務所休み
 - 16~30日 アジア体験学習(フィリピン)
 - 17~19日 京都教区高校生会合宿(津研宗館)
 - 17~19日 京都教区中学生会合宿(つるのハウス)
 - 20~21日 青年センター運営委員会
 - 26~28日 信徒使徒職養成コース・基礎コース(京都北部)
 - 28日(日) 特別聖体奉仕者学習会(加悦教会)
 - 31日(水) 聖ライムンドの記念日(追加)
 - 9月4日、10月16日(河原町教会)
 - 京都南部ウォーカソン実行委員会
 - 9月18日(日) 京都南部信徒協議会(衣笠教会) 14時
 - 10月9日(日) 三重県壮年大会

お知らせ

◎「平和への歩み」の行事

△教区一斉平和祈願ミサ

8月7日 各小教区で

△奈良地区

8月7日 14時~16時 奈良教会

柳本師の講演「私たちにできる

平和づくり」

△三重地区

●ウォーカソン三重を4月29日に

行い、1、379、790円をペ

ルーの子供たちのために働いて

いるバーン神父に送金しました。

●各小教区で平和ミサと平和学習

●主日のミサで平和の共同祈願

△滋賀地区

びわこウォーカソン 11月23日

△京都南部地区

8月7日 15時~国際平和ミサ

(河原町教会) 17時~平和行進

11月3日 フェスター(信愛幼稚園)

◆平和行事と広島から

ヒロシマを越えて

8月5日(金) バネルディスカッ

ション、平和行進、ミサ

8月6日(土) 原爆犠牲者の慰

霊と平和祈願ミサ(轍町教会)

8時()

◆信徒使徒職養成コースの案内

第99回典礼コース(三重)

日時・9月23日(金)~25日(日)

場所・三重県カトリック研修館

費用・17,000円

申込締切・9月10日

福音センターまで

075-822-7123

◆典礼研修コース

内容・主の死と復活を祝う

日時・9月1日~4日

場所・名古屋研修センター

対象・信徒、修道者、司祭

費用・25,000円

問合せ・研修センターまで

052-831-5037

◆東九条現場研修のお知らせ

日時・8月29日~9月3日

場所・希望の家・東九条地域他

参加費・9,000円

8月16日までに東九条キリスト者地域活動協議会へ

075-681-9150

◆正義と平和協議会全国大会

あなたの良き隣人として
カトリック御葬儀
貸物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23

電 (075)312-7829

◆「一万匹の蠍運動」基金報告

累計 6,199,372円

加入者 704名(6月14日現在)

ました。

奈良「洞部落の強制移転コース」の現地学習では、壮大な敵傍御陵の陰に、かつて洞村の人々が、地場産業として雪駄をつくっていた原材料のしゅろの木が今も青々と茂り、また共同井戸も印象的でした。

京都「もうひとつ京都コース」では、上賀茂神社から南下していくイメージの落差。参加者のひとりはこのイメージの落差にしきりと苦しい呻きを発していた。研究者による解説は、日ごろ気付かないことに気づかせてくれる新しい発見でした。

*7月2日現在参加申し込み238人(京都教区参加者28人)。教区の活性化にもつながる、全国レベルの学習交流会にぜひあなたも参加してみませんか。

4月より現地学習を行ってまいり